

「学びの教室」

通信

駒本小学校特別支援教室直通電話 3827-5575 (ファクシミリ兼用)

令和3年5月31日
 特別支援教室「学びの教室」
 巡回指導拠点校・通級指導校
 文京区立駒本小学校
 校長 吉岡 淳
 文京区立汐見小学校(巡回校)
 校長 永井 昌美

非言語的コミュニケーション

特別支援教室の学習ではコミュニケーションに関する教材を扱うことがあります。コミュニケーションは「言語的コミュニケーション(Verbal Communication:言葉による情報のやりとり)」と「非言語的コミュニケーション(Non-Verbal Communication:言葉以外の情報によるやりとり)」に二分されます。

中でも、非言語的コミュニケーションは、他人から受け取る情報の多くを占めていると言われています。その割合は、コミュニケーションの場面や相手、研究者の学説によって異なりますが、およそ60パーセントから90パーセントとなっています。



非言語的コミュニケーションの例を挙げると、自己の身体を相手の正面に向ける、座っている椅子から身を乗り出す、相手の顔に焦点を合わせる、タイミングよくうなずく、ほほえむ、「ン」「フン」「フム」など声(音)を出す、腕を組む、眉間にしわをよせる、ため息をつくなど、枚挙に暇がありません。

加えて、言葉を発している場面における口調や強さ、声の高さなど、服装や髪型も非言語的コミュニケーションであり、改めて整理すると、私達のコミュニケーションの中で重要な位置を占めていることが分かります。

表 それぞれのコミュニケーションの例

言語的コミュニケーション	非言語的コミュニケーション
言葉によるやりとり(口頭、文字)、ジェスチャーサイン(手話やマカトン法)	身振り、手振り、全身の姿勢、表情、視線、相手との距離、服装、髪型、声のトーン、言葉遣いなど

さて、コミュニケーションに課題を抱える子ども達は、この非言語的コミュニケーションを発信する力や受け止める力に弱さがあり、日常の生活場面で困難が生じることがあります。そのため、特別支援教室では、小集団学習・個別学習のいずれかを問わず、お子さんの課題に合わせたコミュニケーションスキルの学習を展開しています。ご家庭でも、時間に余裕がある際に、話すペースや視線を合わせること、そして何と言っても学校での指導ではマスクを外せないため、表情を見ることの大切などについて、お子さんと一緒に考えていただくとよいと思います。



※表情から意図を読み取るなど、相手がどんなメッセージを発しているか考えることは大切です。一方で、そのことを常に意識することは難しく、補うもの・強化するものとして言語的コミュニケーションも必要になります。

<6月のコミュニケーションタイムの主な学習予定>

「天下ボール」

●4色のセラピーマットで分けした陣地の中に、柔らかいボールをワンバウンドで打ち込むゲームです。ラリーが続かなくなった時点で、順位が一つずつ入れ替わります。

- ・勝敗にこだわり過ぎず、結果を素直に受け入れる態度を養う。
- ・目と手の協応を向上させる。



学習指導要領「自立活動」

3 人間関係の形成

- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること
- (4) 集団への参加の基礎に関すること

5 身体の動き

- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

「ジャンボジエンガ」

●大型のブロックを使ったバランスゲームです。

- ・達成感や楽しさを味わい、進んで活動したり最後まで取り組んだりする態度を養う。
- ・どの部分を動かせばよいか、積み上げられたブロック全体を大きな視点で見る力を向上させる。
- ・微細運動の能力を向上させる。

学習指導要領「自立活動」

4 環境の把握

- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

5 身体の動き

- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

以上